

地方民営鉄道の経緯と今後 ——銚子電鉄を事例に——

小林 恵子

1910年、地方へのアクセスと産業の活発化という目的を持った軽便鉄道法の施行を機に、軽便鉄道が日本各地で建設された。鉄道が陸上交通機関の最たるものとされていた頃には、産業・人口が乏しい地域にとって、軽便鉄道は安いコストでつくることができる交通手段だった。しかし、1930年代に入り、バス路線が敷設され、また1960年代に自家用車が普及してくると、地方民営鉄道の地位は低くなってきた。軽便鉄道のひと

つ、銚子電鉄はこれまで、地元の水産業や醤油醸造業などの産業と関わってきた。一方、銚子電鉄は、早くから観光客の誘致を行い、現在では鉄道そのものを観光資源として乗客の吸引力を持つ努力をしている。最近では、鉄道事業とは直接関連のない、土産物の生産を行い、評判を呼んでいる。赤字経営は続くものの、銚子電鉄は利用客の強い支持を得て、国の補助金に加え、千葉県、銚子市の援助も受けている。

商店街の活性化 ——早稲田商店会を事例に——

小林 伶

今日の悪化した経済状況のもとで、日本の多くの商店街は、衰退の一途をたどっている。しかし、こうした状況の中で、新宿区の「早稲田商店会」は、多くの新しい試みに挑戦し、町の活気を取り戻そうとしており、マスコミをはじめ各界から注目を集めている。私はフィールドワークを中心に、商店会の取り組みを追った。論文では、人々の活動状況を紹介するとともに、そうした活動が、今後、どのような形で他の商店街に应用が可能であるかという考察を行った。

論文の第3章で、東京都全体及び、新宿区の小売業と比較して、「早稲田商店会」の状況を、具体的な数値を用いて示した。第4章では、「エコサマーフェスティバル」や「エコステーション情報発信基地」といった商店会独自の取り組みを、聞き取り調査の内容と併せてを紹介した。第5章では、第3・4章を受け、「早稲田商店会」の取り組みが成功した要因を考察した。そして、商店会の今後を展望するとともに、その他の商店街に対する提言を行った。

たちもり 日月の「謎」を追う

日月 綾子

「私の先祖は、なぜ“日月”姓を名乗ったのか」という疑問を解明するため、研究を行った。まず、苗字に関する基礎知識や、その歴史的背景を学んだ。そして、その知識をもとに、聞き取り調査な

どフィールドワークを行い、「日月」姓のルーツ（地域・時代）を追いかけた。石川県（加賀）が「日月」の発祥地であるとわかると、地域の時代背景を調べることで、そのルーツをさらに調査し